



【御船町恐竜博物館新館】

旧恐竜博物館は、建物の空間的な制約があり、利用者の期待とニーズに十分に答えることが難しい状況だった。そこで、新しい恐竜博物館の在り方を検討し、構想・計画を策定。新館は鉄骨2階建て、延べ1,974平方メートルで、約550平方メートルの常設展示室は、現在の博物館の展示スペース213平方メートルの2倍以上の面積になる。常設展示室の一部は吹き抜けで、1階には多目的に使用できる交流ギャラリーがあり、2階に化石のクリーニング室や収蔵庫などを設ける。総事業費は8億5,080万円。

1. コンパクトで体感重視の展示空間
常設展示は「御船層群」・「恐竜」・「生命史と地球環境」の各テーマで構成され、感動から共感、さらに探究へと導く仕掛けがたくさんあります。そして「博物館は単なる展示施設ではない」というメッセージを実感できるバックヤードへの誘い。見るだけでなく、楽しみながら体験できる空間がそこに広がります。
2. 身近に感じる博物館
博物館の活動を全て見ることができま
3. 体験と交流の場
楽しく体験。化石の魅力を満喫できる体験交流室や町民交流スペースもあります。
4. 情報発信の拠点
特別展やイベントを開催し、町の魅力を発信するスペースがあります。
5. 御船町の広告塔
外観は、大きなガラス窓で内部の雰囲気

新しい恐竜博物館 5つの魅力

【御船町恐竜博物館】

昭和54年8月、日本で初めてとなる肉食恐竜の歯の化石（長さ約7センチ）が滝尾上梅木地区で発見され、「ミフネリュウ」と呼ばれている。また、吉無田の化石ひろばでも日本で初めてとなる「スッポンモドキ」の化石など多くの貴重な化石が見つかった。発見された化石の展示や学術研究を目的に平成10年4月に旧武道館を改装して開館。国内では福井県立恐竜博物館と同じ恐竜専門の博物館。平成24年7月には、世界的に有名なアメリカモンタナ州立大学附属ロッキー博物館と姉妹館提携を結んでいる。



恐竜博物館

15年目で

来館者45万人突破

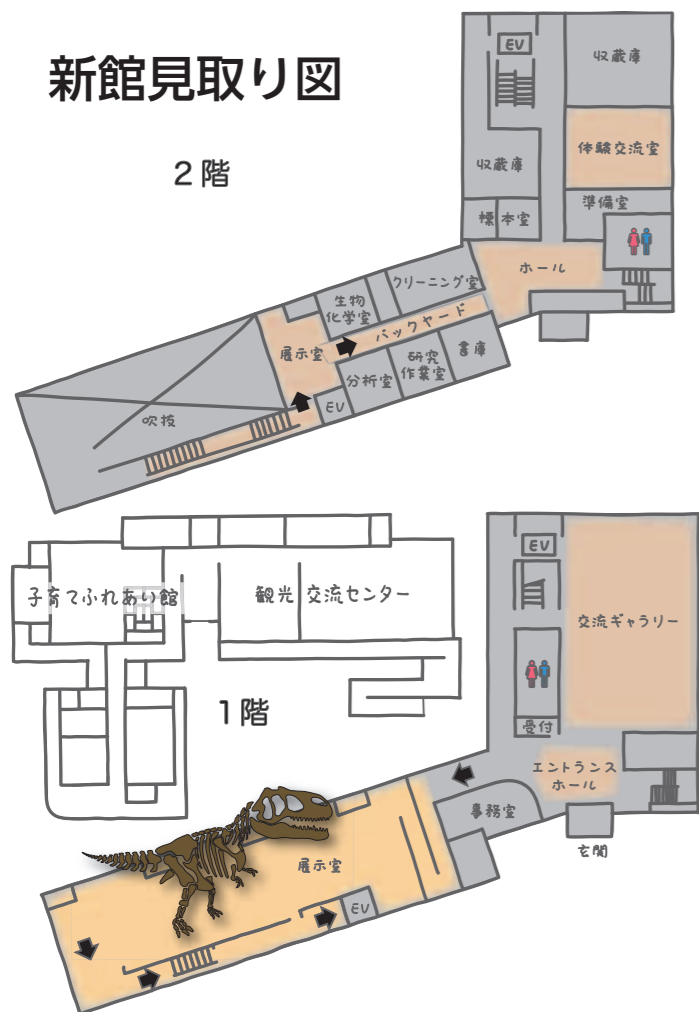
7月13日、恐竜博物館の来館者が45万人を突破し、記念セレモニーが恐竜博物館前で行われました。45万人目となったのは、熊本市南区の田迎小学校1年生の野口真之介君で、記念セレモニーでは山本孝一町長と増永信介館長とくす玉を割り、45万人目の認定証と生涯無料で博物館に入館できる「生涯永年パスポート」や恐竜博物館グッズと水前寺菜「御船川」など町の特産品の詰め合わせが手渡されました。

野口君が博物館に来たのは4回目で、この日行われていた「恐竜キーホルダーづくり」に参加するため来館していました。恐竜は小さいころから大好きで、恐竜の図鑑やDVDをいっぱい持っているという野口君「ティラノサウルスがかっこいいから大好き。帽子などの恐竜博物館グッズをもらえてうれしい」と照れくさそうに話していました。



45万人目の来館者となった、野口真之介君（中央）

新館見取り図



城山公園側から見たイメージ



上空から見たイメージ

平成26年4月恐竜博物館は新しく生まれ変わります。



御船中側から見たイメージ